

日本工学院専門学校		開講年度	2020年度(令和2年度)		科目名	ITマネジメント	
科目基礎情報							
開設学科	ITスペシャリスト科		コース名	モバイルアプリ専攻		開設期	前期
対象年次	1年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	2単位		開講時間	月曜 3時限目～		授業形態	講義
教科書/教材	IT戦略とマネジメント(インフォテック・サーブ)／授業内配布プリントなど						
担当教員情報							
担当教員	白幡知之・煤系統一郎			実務経験の有無・職種	有・講師		
学習目的							
この講義では、システムを構成するソフトウェアを開発するソフトウェア開発手法や、ある特定の目的を達成するために不定期に立ち上げられる業務やプロジェクトを成功させるための手法・技術を学習し、情報処理技術者としてのスキルを向上されるものとする。また、情報システムの効率的な運用手法や、管理手法などに関しても学習し、企業自らが業務を適正に遂行していくための体制作りに関する知識も学習し、社会人としての基礎的スキルとして修得するものとする。							
到達目標							
これから情報処理技術者として社会人になるにあたり、授業で学んだ知識を元にプロジェクトマネジメントの考え方などを理解する。情報システムを適正に運用するための知識も学習し、開発から運用まで一連の流れを全て把握できるようにする。また、情報処理業界の人材を育成するための指標として実施されている情報処理技術者試験(国家試験)の各種試験区分における基礎的知識の修得をすることによって、試験の合格も目指すものとする。							
教育方法等							
授業概要	キャリアサポートブックに沿って就職活動の流れと書類の作成方法について学ぶ。まずはじめに自己分析を行い自分の興味・志向を確認する。次に業界と職種を理解し自分が進むべき方向を見定め、企業へのエントリー方法と履歴書の書き方を学ぶ。さらに筆記試験と面接試験の概要を学び後期に受講する「キャリアデザイン2」の実践的学習につなげる。筆記試験対策として毎回「就活ドリル」の問題を演習する。一般教養・SPI・面接対策 履歴書・作文作成。						
注意点	この授業では、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める(詳しくは、最初の授業で説明)。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	80%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	レポート	0%					
	成果発表 (口頭・実技)	0%					
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画(1回～15回) 1回(2)時間 ※45分を1時間とする							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	システム開発技術			システム開発プロセス、ソフトウェア実装プロセス、保守・廃棄プロセスを理解できる			
2回	ソフトウェア開発技術			ソフトウェア開発手法、ソフトウェア設計手法、開発プロセスを理解できる			
3回	システム開発環境			知的財産適用管理、開発環境管理、構成管理・変更管理を理解できる			
4回	Webアプリケーション開発			Webアプリケーション、開発手法を理解できる			
5回	プロジェクトマネジメントの概略			プロジェクトマネジメントの目的と考え方を理解できる			
6回	サブジェクトグループ(1)			プロジェクト統合マネジメントを理解できる			
7回	サブジェクトグループ(2)			プロジェクトスコープマネジメントを理解できる			
8回	サブジェクトグループ(3)			プロジェクトタイムマネジメント、コストマネジメントを理解できる			
9回	サブジェクトグループ(4)			プロジェクト品質マネジメント、リスクマネジメントを理解できる			
10回	サービスマネジメントの概要(1)			サービスマネジメントの目的と考え方を理解できる			
11回	サービスマネジメントの概要(2)			サービスマネジメントシステムの確立及び改善を理解できる			
12回	サービスマネジメントの概要(3)			ITILを理解できる			
13回	サービスマネジメントの手法(1)			サービスの設計・移行、サービスマネジメントプロセスを理解できる			
14回	サービスマネジメントの手法(2)			サービスの運用、ファシリティマネジメントを理解できる			
15回	システム監査と内部統制			システム監査の目的と考え方、ITガバナンスを理解できる			